

『サマータイムマシン・ブルース』

2005年／日本／本広克行監督作品

時をかけるクーラーのリモコン

会員 後藤 柁哉 (72期)

季節は夏。

リモコンが壊れてクーラーが使えなくなった部室の中で、くだらない会話を繰り広げる大学生6人組の前に、突如、未来からやってきたタイムマシンが現れる。どうやら、最大99年間、過去にも未来にも行けるらしい。大学生達は、どこ（いつ）に行って何をするか、話し合う。そして、うだるような暑さの中で、彼らが決めた使い道は、「昨日に戻って、壊れる前のクーラーのリモコンを取ってくる」ことだった。

本作は、劇団「ヨーロッパ企画」の舞台公演を原作とした、SF青春コメディである。最初是一日前に戻ってリモコンを取りに行くだけだったが、タイムパラドックスを回避するためにタイムトラベルを繰り返し、物語は徐々に複雑な様相を呈していく。本作の魅力は、なんといっても、張り巡らされた伏線が回収されていく精緻な脚本と、登場人物達が繰り広げる軽妙な会話劇であろう。

私は、本作を鑑賞するたびに、羨ましいという感情を覚える。

もっとも、過去にも未来にも行けるタイムマシン、それ自体を羨ましいと思うのではない。過去というのは今に繋がる軌跡であって、それを改変することは、今の自分を受け入れてくれる大切な人の思いを裏切るような気がするからである。また、将来、自分がどうなっているのかについても、あまり興味がないので、未来を知りたいとも思ったことがない。

他方で、時間を持て余し、利害関係とは切り離された、純粋な友情のみで他人とつながっていた学生時代、

『サマータイムマシン・ブルース』
Blu-ray: ¥4,180 (税込)
DVD (スタンダード・エディション):
¥2,750 (税込)
発売元: ショウゲート
販売元: ボニーキャニオン
© 2005 ROBOT/東芝エンタテインメント/博報堂 DYメディア
パートナーズ/IMAGICA



目の前に突然タイムマシンが現れたら、何をしようかと、この映画を見るたび、空想に耽る。そして、昨日に戻ってリモコンを取りに行くという、大変にくだらない目的を超えるタイムマシンの面白い使い道は、自分には思いつかないだろうかと、悔しい思いを噛み締めながら、大騒ぎを繰り広げる登場人物達が羨ましいなと思うのである。

また、本作を鑑賞する際のポイントとして、もう一つ、主人公が登場人物の一人に抱く恋心を挙げておきたい。恋愛要素は、時間跳躍を題材とする作品との親和性が高く、同様のテーマを取り扱う諸作品においても、重要な役割を担っている。これは、あの時こうしていれば、という後悔が、恋愛において多くの人が共通して持つ感情であるからであろう。もっとも、本作における恋愛要素は、過去の選択をやり直したいという動機付けではなく、エンドロール後の展開を示唆するオチとして登場する。作品全体を通じて提示される「未来に起こる出来事は、予め決められているのか」という問いかけに絡んだ、本作を締めくくるに相応しい、爽快感のある秀逸なオチとなっているので、是非、ご注目いただきたい。

本作は、約20年前に公開された映画であるが、決して古臭さを感じさせることはない。それは、馬鹿げたことを繰り返す学生の姿に、今も昔も、違いはないからであろうか。本作の魅力を理解した読者は、ヨーロッパ企画が制作した映画「ドロステのはてで僕ら」(山口淳太監督、2020年)と「リバー、流れないでよ」(山口淳太監督、2023年)についても、鑑賞してみたい。いずれも、時間を題材としたSFコメディの傑作である。